

浦安市女性プラザニュース

## Urayasu Women's Plaza News

特集 かがやく私をもとめて

第16回「女と男<sup>ひと</sup>うらやす<sup>ひと</sup>かがやきフォーラム」開催

2月5日(土)に浦安市文化会館小ホールで開催した「女と男<sup>ひと</sup>うらやす<sup>ひと</sup>かがやきフォーラム<sup>ひと</sup>\*」は今年で16回目を迎えました。このフォーラムは、わたしたち一人ひとりの身近な問題として男女共同参画社会について考え、それぞれが自分の個性を活かし自分らしく生きることのできる社会づくりのきっかけとなることをめざしています。

今回は、第1部で、遙洋子さんによる基調講演「私の生き方 - 仕事も、介護も、恋愛も」を、第2部では、遙さんと市民とのトーク&トーク「かがやく私をもとめて」を行いました。

遙さんには、家族の介護や仕事を通して培った経験から、自分らしく生きていくヒントを、楽しくまた熱く語っていただきました。第2部のトーク&トークでは、女性プラザ主催講座の受講者と遙さんとで、女性が日ごろ感じている問題について率直な質問や意見が交わされました。会場からは時折笑いやうなづく姿も見られ、参加者の共感の様子が伺えました。



<sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup>  
\*「女と男<sup>ひと</sup>うらやす<sup>ひと</sup>かがやきフォーラム」  
男女が共に、性別に関わりなく、その個性と能力を十分発揮することができる「男女共同参画社会」をめざし、毎年開催しています。



## プロフィール

大阪府出身。武庫川女子大学短期大学部卒業。テレビ・ラジオ・執筆など幅広く活躍。日経BP社「日経ビジネス」連載コラム「働く女性の眼」執筆。その他、著書に『東大で上野千鶴子にケンカを学ぶ』『介護と恋愛』『ハイブリッド・ウーマン』など。

## 「私の生き方 仕事も、介護も、恋愛も」遙洋子さん

最近話題になっている勝ち組・負け犬という言葉からみた結婚と女性の生き方との関わり、また、仕事をしながら生きるということはどういうことなのかなど、自身の経験を通して語っていただきました。

自分の母の時代の結婚を振り返りながら、「今の時代、結婚をしても生涯安泰でいられるとは限らない、その後夫婦がどんな関係性を築いていくかということが重要なのでは？」と、女性の生き方について問いかける遙さん。また、「今女性の生き方が多様化したと言われるが、仕事を持ち一人で生きる女性も、あるいは結婚して家庭に入った女性も、子育てしながら仕事を持つ女性も、そしてまた離婚を選択しシングルマザーになった女性も、それぞれに厳しい現実を抱えている」とも。

さらに、父親の介護をめぐる問題に直面した時には、家事や介護が女性や嫁の仕事として考えられ、社会には未だに家族制度が根強く生きていることを強く実感したとのこと。「一人ひとりが自立し、安心して生きていくためには、まずは社会とのネットワークを作っていくことが大切」とのお話でした。

遙さんは最後に、自身の著書にも取り上げた上野千鶴子さんの「女性は何歳からでも自分を生きられる」という言葉を紹介し、「私は私の道を生きて行こう」との力強いメッセージを参加者に送りました。

## トーク&トーク「かがやく私をもとめて」

女性プラザでは、自分の生き方について考える講座を開催しています。講座には、かがやく自分をもとめて様々な女性たちが集まってきました。

そこでフォーラム第2部では、市民を代表して、「情報誌編集講座」「エンパワーメント女性学講座」「ウーマンズカレッジ」(3ページ参照)の受講生から、鍋野加津美さん、関口安子さん、末岡圭子さんが壇上に上がり、遙洋子さんとの「トーク&トーク」を行いました。エンパワーメント女性学講座の講師増永朋子さんをコーディネーターに、受講生の皆さんと遙さんとで、日ごろの想いを話してもらいました。その内容をまとめて報告します。



### 両親とは離れて暮らしているので十分な介護ができないかも...

親の介護は誰の仕事？

今の社会では、介護は主に女性が担っているのが現実。そして、自分が介護できない時には、女性は自分で自分を責めてしまいます。

親の介護は、多くの人が同じように悩んでいる問題です。

それぞれが自分のできるところで関わっていくことが大切です。

十分な介護って？ どうしたらできる？

介護には、やらなければならないこと、やってあげたいと思うことがたくさんあります。それぞれ自分自身の仕事や生活もあり、自分が満足できるような介護をすることは、とても難しいことです。

十分な介護ができているだろうかと思い悩むより、自分なりにできることをやって納得して生きることです。



### 「男は外で働き、女は家庭を守るもの」と考える夫。でも、私は仕事を始めたい。

家事・育児は女性の仕事？

家のことも子育ても嫌いではないので、十分にやっているつもりですが、仕事を始めれば今までのようにはできなくなってしまいます。

家事・育児は男女が共に担うものという意識を持つ男性は、まだまだ少ないようです。

どんな生き方をしたい？

話し合ってもうまくいかない諦めて辛抱して生きていると、後悔の人生を送ることになってしまう。

無理やり行動に出れば、相手とぶつかってしまいますが、辛抱するよりは、相手とぶつかる辛さを選びたい。

自分が好きなことをやってのびのびと生きる姿を、子どもに見せることも大切です。



### 家庭から社会へ踏み出す足がかりをつかみたい。

家庭と社会の違いは？

趣味の世界は楽しいが、仕事では嫌なことがたくさんあります。

仕事の場合には、嫌な環境でも、その中で何とかやり遂げていかなければなりません。

仕事は辛くて厳しいこともありますが、もまれながら向上していくことで、より強い自分になれます。

社会へ踏み出すということは...

人が自立したと思えるのは、自分が生きているという確かな手ごたえを感じたとき。

私の場合、困難なことを乗り越えて成長していく自分に気付いたとき、生きている手ごたえを感じます。

何か一つ辛いことを自分に課してみること、生きている実感が得られるでしょう。



親や夫との関係、社会との関わり方などさまざまな視点から問いかけがあり、それぞれの問題について、自分の体験を交えて話し合いました。異なる状況にあっても、女性たちが抱える問題の根っこは同じであると言えるのではないのでしょうか。代表の方々の堂々とした発言には、浦安の女性たちの力と熱意が感じられ、会場からも盛大な拍手が送られました。

そして、遙さんから皆さんへの「かがやいていくためには、のびのびとやりたいことをやり、自分で自分の人生を肯定して生きることが大切」とのメッセージで、熱気に満ちた「トーク&トーク」は終了となりました。



**\*\* 会場の声から... \*\***

楽しくおもしろかった 自分の決めた道を歩くのに勇気もらった 涙が出るほど心に沁みる言葉だった 市民代表が主婦だけだったので共感できなかった もっと広い範囲の女の生き方も聞きたかった 社会の矛盾をストレートに語ってくれてスッキリした 多少偏りすぎているのでは?と思うところもあった それぞれの立場でのトークに、生の声が聞けた/世代が違いすぎるので驚くことが多かった 市民トークでは自分にあてはまる問題もあってよかった 自分のことだけでなく、もっと広い意味で社会問題に触れてほしかった 共感できるお話、自分と重なる部分、これから私にふりかかるだろうことが聞けた 遙さんの生き方・割り切り方は周囲の方との共存の仕方の一つとして参考になった 男性として本質をつかれているようでドキリとする部分もあった 「“ ~するべきだ ” では人は動かない」という言葉に共感した

**女性プラザ主催講座の紹介**

**情報誌編集講座**

男女共同参画の視点での情報誌の制作方法を学び、市民と行政との協働で「男女共同参画社会をめざす情報誌ポノ・ポノ」を編集・発行します。

**エンパワーメント女性学講座**

自分の生き方を見つめなおしながら、女性が抱える問題や課題に気づき、その背景を学習します。

**ウーマンズカレッジ**

自分らしい生き方を考え、それを実現できるようにエンパワーメントすることをめざします。

**性別役割分担意識  
浦安市では...**

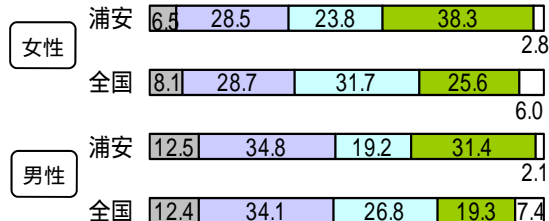
～ 浦安市男女共同参画指標 ～

トーク&トークでも話題になった「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識について、浦安市民はどう考えているのでしょうか。「男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査」(平成13年)から見てみました。

次の市民意識調査は平成17年度に実施します。

男女別・性別役割分担意識(浦安・全国比較)

単位: %



浦安市: 男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査(平成13年)  
内閣府: 男女共同参画に関する国際比較調査(平成14年)

- そう思う
- どちらかというと思う
- どちらかというと思わない
- そう思わない
- わからない・無回答

浦安では、全国に比べ、男女とも性別役割分担に否定的な人の割合が高くなっています。しかし、男女間で見た場合、その割合には依然として差があることがわかります。「男だから、女だから」ではなく、「その人らしく」生きることができ、社会をめざすためには、「男は仕事、女は家庭」という性別による役割意識・行動を変えることが大切です。





## Book Guide

ブック・ガイド

### 結婚帝国 女の岐れ道

上野千鶴子・信田さよ子著 講談社



今、日本社会の過渡期の世代である30代の女性に何が起きているのか、著者二人が歯に衣を着せぬ対談を進めながら解き明かしていく。「どっちつかず」の30代は意識と行動の「股裂き状態」と言い切る上野千鶴子。一方、信田さよ子、はカウンセラーとして10代・20代の娘を持つ母親たちに接する中で見てきた結婚や女と男との関係性、あるいは子ども(娘)との関係性について答えを探す。あけすけな二人の対談に戸惑いながらも、うなずきながら読み進んでしまいます。これまでの、そしてこれからの自分の生き方をも考えさせられます。

### 介護と恋愛

逢洋子著

筑摩書房



タレント業という夢を売る世界で働किながら、家に帰ればオムツと格闘しなければならないという生活。恋愛もしたい、もう少し楽をしたい、というごく普通の感情と、容赦なく突きつけられる介護の厳しい現実との間で揺れ動く気持ちが率直に語られています。仕事を持ち、恋愛もしながら、父親の介護をした体験から出た「介護する側の心の支えとなるのは、介護される人が幸せな人生を送ったという確信が持てること」という言葉には、「自分らしく生きること」への勇気と励ましのメッセージが込められています。

## Plaza Information

プラザ・インフォメーション

### 「うらやす男女共同参画データブック ハロー!! わたしの未来」ができました



浦安市の男女共同参画が、どのような状況にあるのかをわかりやすくまとめたデータブックが完成しました。「そもそも男女共同参画って何?」と思っている方にも大変役に立つデータブックです。女性プラザの他、中央図書館、各公民館でも閲覧できますので、是非ご覧下さい。また、必要な方は、女性プラザまでお問合せ下さい。

### 第5期浦安市男女共同参画推進会議開催

第1回目の推進会議が、平成17年3月8日に開催されました。今期は、学識経験者、団体推薦、市民公募からなる15名の委員で構成されています。2年の任期にわたり、浦安市の男女共同参画社会づくりの施策について審議し、意見をまとめていくことになっています。推進会議の議事録については、市のホームページでご覧になれます。

### ポノ・ポノVol. 5発行!



「ポノ・ポノ」は、市民の編集による男女共同参画社会をめざす情報誌です。ポノ・ポノVol.5では、「結婚と家庭を考えよう」を特集のテーマとして取り上げ、結婚に対する考え方、妻と夫の関わり方、家事=生活力について問いかけています。“すてきな”浦安市民へのインタビューなど、身近な話題を盛り込んだ興味深い内容になっています。是非ご覧下さい。(ポノ・ポノVol.5は、平成16年度情報誌編集講座修了生の中から募った市民編集員が作成しました。なお、平成17年度の講座の募集は、広報でお知らせします。)

女性プラザでは、市民の皆さんからのご意見・ご要望をお待ちしています。プラザニュースで取り上げてほしいテーマなどがありましたら、下記の女性プラザまでお知らせ下さい。



## 浦安市女性プラザ



困っていること、悩みごとがあったら・・・

「女性のための相談」(予約制)

第1～4月・火・木曜日(10:00～16:00)

(但し、うち3回は14:30～20:00)

「女性のための法律相談」(予約制)月2回

\*詳細・予約は女性プラザまでお問合せ下さい。

図書の出借をしています

\*1人1回3冊まで、2週間貸出しています。

ホームページを開設しました

浦安市のホームページ(<http://www.city.urayasu.chiba.jp>)

「市政情報 男女共同参画」をご覧ください。

開所: 月～金 8:30 - 17:00 (土日祝休み)

住所: 浦安市猫実1-1-2 浦安市文化会館2F

電話: 047 351 1111 (内線1050)

FAX: 047 353 1145

Mail: [urayasu-womensp@jcom.home.ne.jp](mailto:urayasu-womensp@jcom.home.ne.jp)

編集・発行: 浦安市女性プラザ